英文読解の基礎　フレーズリーディングを基にした読解指導
安倍式読解法の展開

2004/07/18　安倍冨士男　盛岡白百合学園高校

まだまだ書き直しが必要な未定稿のため、印刷不可に設定しています。

目次

1　安倍式英文読解法の構成
2　安倍式英文読解法 ver.2 の授業における展開法
3　安倍式読解法 ver.2 の授業指導計画
4　意味のまとまりの区切り方　基本原理と解釈の仕方
5　意味のまとまりの区切り方　応用と解釈の仕方
6　英文解釈 FAQ（Frequently Asked Questions　よく聞かれる質問とその答え）
7　段階別英文読解ドリル

1　英文読解ステップアップ法（安倍式）

安倍式１　慣れないうちはこのやり方でかまいません。わかればいいのですから。
しかし、この段階はできるだけ早く抜ける必要があります。（必要悪の方法）
意味の区切りを作る。
最初に主語を訳し、あとは後ろのまとまりから動詞まで戻る。

安倍式２　慣れてきたらこのやり方で。
意味の区切りを作る。
前から解釈していく。（英文黙読　声で日本語化）

安倍式３
意味の区切りを作る。意味の区切りの拡大（特に名詞構造）
前から解釈していく。（英文黙読　頭の中で日本語化）
パラグラフ構造に着目

安倍式４
小さな意味の区切りを作らない。節ごとの解釈。
前から解釈していく。（英文黙読だけ　頭の中で日本語に訳さない。）
パラグラフ構造に着目
大意把握。

2　安倍式2　授業における展開法

Step1　意味のまとまりで区切る。

鉛筆で区切ってもいいし、慣れてきたら目で区切ることができます。まずは、鉛筆を使って区切りを入れましょう。
では、区切り方の原則を示します。

区切り方の原則

1　主語のまとまりで区切る。
⇨ 区切ったら必ず「～は」と主語の助詞をつけて声に出して言います。

2　動詞のまとまりで区切る。
⇨ 区切ったら必ず「～する」と声に出して言います。
（ただし be 動詞は「～です」と声に出して言います。）

3　動詞の後ろにあるものを次のルールに従って区切る。

3.1 英文で一番多いパターンは SVO なので、動詞の後ろには目的語が来るのが普通です。
⇨ その場合には、その名詞を中心とした意味のまとまり（これを目的語と言います）を
「～を」と声に出して言います。

3.2 さらに後ろにあるものを意味のまとまりで区切ります。
英文では、次の順序で並ぶことになっています。
方法→場所→時間です。つまり、「どんな風に」「どこで」「いつ」という語群です。
これらは、前置詞がついていることが多いのでひとまとまりにしておきます。

（例）	at the station	駅で	これでひとまとまり	with my friend	友達と　〃
	in window	冬に　〃		yesterday	昨日　〃

Step 2　これらの意味のまとまりを、次々に順序よく決して戻らずに読んでいきます。

その際に注意することは、
英文は目で読んで、区切りを見つけ、
手で区切り線（/）を入れ、（　/　スラッシュと言います。）
頭で日本語化し、
その日本語を声を出して読みます。
耳でその日本語を聞いて、再度頭脳の短期記憶メモリーに格納します。（短期記憶の利用）
留意すべきことは、決して後ろから修飾関係を意識して戻らないことです。記憶が消えないうちに前へ前へと読み進めて行きましょう。

それでは、最もシンプルな例で具体的にやり方を示します。

Tom likes Mary very much.

これを、次のように意味のまとまりに区切って読んでいきます。

Tom / likes / Mary / very much.

トムは　→　好きです　→　メアリーを　→　とても

これで終わりです。決して後ろから日本語らしくなるように読んではいけません。

また、「～は」とか「～を」を省略してはいけません。これがないと、文の骨格がはっきりしなくなります。

これを曖昧にすると、「英文を読んでもぼーっとした意味しか出てこない」という現象が起きます。

安倍式読解法バージョン２でやってはいけない例を示します。

Tom / likes / Mary / very much.

トムは　→　とても　→　メアリーを　→　好きです

これは、バージョン１のやり方です。これを学校ではよく「返り読みする」と言います。大学入試など「限られた時間で膨大な量を読む」場合にはあまり適しているとは言えません。

もう一度バージョン２のポイントとその理由を説明します。

安倍式読解法 ver.2 のポイント！

書かない

書くと遅くなるから。遅いと文章の最後の方にいくうちには最初の方を忘れています。１つの文の意味解釈に時間がかかると、短期記憶がいかし切れません。主語を訳して戻っても戻ることに一生懸命になって、日本語にはしたけど、何を言っているのか意味内容が解らない」ということになります。また、高校入試でも大学入試でも「長文全体を書いて日本語訳しなさい」というのはありません。

意味を日本語で声に出す

耳に入って、そこから脳内の一時的短期記憶に格納するため、どうしても必要です。日本語として順序正しくなくても、「～は」「～を」「～に」「～なので」と助詞をつけることでだいたいの**意味ははっきりします。**(声にも出さない方法は、安倍式英文読解法 Ver.３で扱います。)

途中で止めないで文章の最後まで行く

途中で少し解らなくなっても、文章の最後まで読み進めることの利点は２つあります。１つは、１文ずつの意味が分かっても文章全体の言いたいこと（これをその文章の主題（テーマ）と言います）は全体を読まないと理解できません。２つ目は、英文では大事なこと（しばしば抽象的な主張が多いのですが）は、何度も繰り返して出てきます。また難しいことは、ほとんどと言っていいほど、具体例で例示してくれます。ですから、知らない単語でも、他の部分を読むことで意味が類推できることもあるのです。

意味のわからない単語に出会ったら

英単語のまま声に出して訳してしまいます。理由は以下の３つです。まず１つ目に、こうすることで、前後関係から意味が大体推測できたりすることがあります。２つ目に、これはとても大事なことですが、英文読解ですべての単語を知っている場合というのは、こと大学入試に関しては、ありえません。だいたい数個から１０数個まで意味不明の単語を抱えたまま、誰でも読み進めることになります。それでも途中で投げ出すより、「だいたい解ればいい」と次善策を取る方が現実的であり、そうするより他ないのです。それが厳しいけれど現実です。それとも皆さんは入試本番の最中に途中放棄して家に帰りますか？（笑）　また母国語でも同じです。考えてみて下さい。現代文（特に評論文）においては、日本語でも意味不明の用語が使われていますが、私たちは何とか読み進めています。同じ事が英文でも言えます。英文中にはネイティブ・スピーカーだって意味が分からない英単語だってあるのです。

（日本語例）

「むかし、この地には海軍工廠があったと言われている。」　海軍工廠って読めます。意味解ります？

解らなくても結構です。「むかし、ここに海軍のなんかがあったんだ」と解ればいいわけです。

（英文例）You / can get / a good idea / of what trash is.　　（大学入試問題）

あなたは　→　手に入れることができる　→　よい考えを　→　trash が何かについての

＝　あなたは trash とは何かについてのよい考えを得ることができる。でもいいわけです。　（trash=ゴミです。）

3　安倍式読解法 ver2 の授業指導計画

１　趣旨説明

a．やり方の説明（区切り方の原則を明示的に板書やプリントを使って説明）

b．このやり方の利点と根拠を説明（利点や根拠がないものには、生徒は熱心に取り組まないものです）

２　教師単独のデモンストレーション

パラグラフ１つを、すらすらと区切りながら、前から読み下してみせる。

（「なるほど、こんなに簡単なら私にもできそう、納得してもらう。）

次は指導の段階についてです。

留意すべきことは、すべての知や技術習得の大原則「易→難へ」に沿って展開すること。従って、３つのステップを考えてみました。

ステップ1　生徒と教師が一緒にやってみる段階。このフェイズに要する長文問題数は1～2。

a．わからないだろうと思うような単語と熟語には意味を与え行間に記入させる。

（単語熟語を覚えることと、読解スキルは別問題。別の場面で指導すればよいと最初は考える。）

b．　生徒に鉛筆を持たせ生徒と教師が一緒に英文の意味のまとまり（Sense Group＝SG と以後略記）を声に出して読む。

c．　生徒に鉛筆で SG ごとに切らせる。

d．日本語音読

教師――日本語を声に出して読む。

生徒――教師の後について日本語を声に出す。（こうしてフレーズの意味生成に慣らしていく）

e.どんどんパラグラフの最後まで読み進める。

f.　日本語訳がないと不安な生徒には、後日、日本語訳のコピーを渡すことを話し、とりあえず全訳を書かないといけないという不安症候群から生徒を解放する。また、英文の意味内容を取れる方法を学ぶことが大事であって、意味内容を暗記することに意味はないことを説明する。

g.　よく解釈できたとほめて自信をつけさせる。またスピードが早いことも認識させ、これもほめる。

（何事も最初が肝心。はじめよければ終わりよし。ここで成功体験を積むことは、のちのちの自律的読み方へとつながる）

ステップ2　生徒が日本語化だけ独力で行う段階

これに要する長文問題数は１～２をやって、意味のまとまりの作り方に慣らす。

（この問題数も生徒の能力による。とにかく生徒をよく観察すること。Listen to the students!）

a. わからないだろうと思うような単語と熟語には意味を与え行間に書き込ませる。

b.　生徒に鉛筆を持たせ生徒と教師が一緒に SG ごとに声に出して読む。

c.　生徒に鉛筆で区切らせる。

d. 日本語音読は生徒のみ！

生徒――各自でゴモゴモと日本語を声に出す。（こうしてフレーズの意味生成に慣らしていく）

f.　もう一度、英文を黙読させ、今度は日本語の意味に集中させる。

これにより単文ごとの意味内容と、文章全体の意味内容の両方の把握に集中させる。

g. 長文に付属している設問を解かせる。

h.　知らなかった単語と熟語のノートに整理させボキャブラリーの増大に努める。

i.　後日、単語熟語テストと部分訳の実施。（目的　ボキャブラリーの増強、部分訳は SG 訳を基にして生成させるクセをつける）

ステップ3　生徒が独力で英文黙読と日本語解釈を進める段階

a. このフェイズでは、できるだけ読むことに主眼をおかせるために、単語熟語の意味調べは事前に行うように指導。留意することは、単語熟語の意味は、文中で決定されるためにやはり自宅学習でも読みながら辞書を引くことを指導。場合によっては、単語の意味さえ手っ取り早くわかればいいので、電子辞書の使用も認める。（希望者に対してケースバイケースで判断）

b.　授業で行うことは何か？

重要語句の発音と意味確認（調べてきているとは言え、誤訳している可能性があるので日本語化に入る前に修正をかける）

音読訓練（文強勢など）　また意味のまとまりが音読の切れ目（ブレス）の位置にあることを認識。

設問の解き方指導と答えあわせ。

単語熟語テスト

c.　あきらかな誤訳あるいは訳がわからない箇所の確認

日本語のコピーを渡し、どうしてその日本語になるのか、わからない箇所について詳しい説明。

生徒のあきらかな誤訳から学ぶ。生徒は何につまずいているのかを発見する大事なチャンス。教師は必ず聞き出してメモを取ろう。

4　センスグループの区切り方の基本原理と解釈の仕方

A　語順配列の規則を学ぶ

英文読解能力を高めるためには、文の骨格についてよく知ることが大事です。英文の骨格は、とても単純で名詞と動詞だけで出来ています。（ここでは説明をわかりやすくするために、わざと形容詞を省いてあります。）名詞の中でも動詞の前に出てくるものを特に、主語と呼んでいます。名詞の中でも動詞の後ろに出てくるものを特に、目的語と呼んでいます。

ルール1　英語の基本的語順の認識

英語では、基本的に次のセンスグループ（SG）が並んでいます。このことを頭に入れましょう。そして次に何がくるか予測して読むようにします。

主語　→ 動詞　→ 目的語　→ どんな風に　→ 誰と　→ どこで　→ いつ

（例）　Taro / wrote / a letter / yesterday.

太郎は　書きました　手紙を　昨日

ルール2　主語は一番最初に出てくる名詞で、「～は」と訳す。

主語とは、この文が何についての話題かを示す大事な語句です。必ず名詞が入ります。訳は必ず「～は」と訳します。例文では、Taro が主語にあたるので、「太郎は」と訳します。また主語を一番最初に訳すことはとても大事なことです。主語はその文が何について書かれたことか、あるいは誰が動作の主人公かはっきりしめす役割を持っています。

ルール3　動詞とは2番目にあって、基本的には「～する」と訳す。

動詞とは、動作を示す語句です。必ず、その動作がいつおきたことなのかを示すため、現在形、過去形、未来形のいずれかになっています。したがって時間によって変化しているため見つけやすい単語です。訳は必ず「～する」と訳します。過去の時は「～した」と訳します。

ルール4　動詞は他のいろいろなものと一緒に動詞句を作り、まとまった意味をなす。

動詞は１個で用いられることもありますが、ほかに２個以上で特殊な意味を表すものがあります。

中学で学ぶ動詞の意味のまとまり（＝動詞句）は次のようなものがあります。

動詞	日本語	名前
be 動詞	～です。	
一般動詞	～する。	
be doing	～している	進行形
be done	～される	受動態
have done	～してしまった	完了形（完了がデフォルトの意味です。ほかに回数の語句があったら経験「～したことがある」、期間の語句があったら継続「ずっと～している」と変化させる。）

ほかに助動詞が組み合うこともあります。これらの意味はしっかり覚えなければなりません。

will do	～するでしょう	～するつもりだ
can do	～できる	～はありうる
may do	～するかも知れない	～するかも知れない。
must do	～しなければならない	～するちがいない

このような英文法で習った知識を実際に英文読解でどのように利用するのかを示す。例えば、次のような文があった場合には、動詞の部分を助動詞も含めて/で区切りまとめる。

He / will be able to swim / in the sea.彼は海で泳ぐことができるようになるだろう。

動詞の部分だけを抽出して見てみよう。

/ will be able to swim /

これは、意味のまとまりごとにさらに小さく３分割できる。

will / be able to / swim

でしょう　/ できる　/ 泳ぐ

これを後ろからつなぎます。後ろからつなぐと「泳ぐことが＋できる＋でしょう」となり意味が生成されてきます。（さらに簡単に「泳げるでしょう。」と言っても構いません。

留意すべきことは、この動詞句だけは、動詞句の中を部分的に後ろから訳して訳を確定させます。動詞句の意味があいまいだと文全体の意味がはっきりしなくなるからです。この動詞句の部分で読むスピードが多少落ちてもしっかり意味を捉えよう。慣れてくれば早く解釈することができます。

（例題）これはどうだろうか。すらすらと日本語が口について出てくるだろうか。

/ will　be written /

/ must be done /

また、大学入試問題にはこんなのもあります。安倍式では、次のように区切ります。

I / don’t want to have to come back / here / tomorrow.　　（横浜市立大学）

私は　　したくない / しなければ / 戻る　　ここに　　明日

→　「明日またここに戻って来なければならないのは困る。」

ルール5　動詞は次にどんな単語が来るかすべて決定する大事な単語である。

動詞は、意味の上ではいろいろな動作を表す単語です。例えば、日本語で言うと、「食べる」「飲む」「勉強する」「思う」「始める」「書く」「負ける」などです。英語では、eat　drink　study　think　start　write　lose などがそうです。

しかし、もうひとつ非常に重要なことがあります。それは、動詞は次にどんな単語が来るかを決定する非常に大事な働きを持っているということです。

例えば、eat などは「～を食べる」という意味ですが、もうひとつ、「～を」を表す名詞が来るということを意味しています。ですから、それを知っていれば、eat の次には、名詞が来て、そのあとには「どんな風に」「どこで」「いつ」という語句が来るだろうと予測できるわけです。

また give という動詞は、「あげる」という意味ですが、もう一つ大事なことは、次に「誰に」「何を」という２つの名詞が来ることが決まっているのです。ですから、これを知っていれば、予測して早く正確に読むことができます。

他に put という動詞は、「置く」という意味ですが、通常は、「何を」と「どこに」という語句が連続して現れます。このように動詞の意味の他に、どんな単語を後ろに従えるかをある程度知っていることはとても大事なことです。

ルール6　目的語とは動詞の後ろにある物体や人のことで、「～を」と訳す。

目的語とは、動作を受ける対象です。たとえば次の例文を見てください。

I　　love　　Mary.

I　　→　　Mary

（love という動作を行う人）　（love という行為）　（love という動作を受ける人）

この場合、love という動詞は、I から Mary という目的（対象＝オブジェクト）に向かっています。その逆に Mary は I を愛しているとは限りません。つまり、love（愛する）という動作は、一方通行の現象を述べています。このように、動作を受ける人やモノを、動詞の対象や目的になっているので、動詞の目的語と呼びます。目的語は動詞の後ろに存在し、必ず名詞が入ります。つまり人やものが入ります。動詞の種類によって、目的語を取らない動詞もありますが、**英文の基本構造としては、目的語を取るケースが一番多いのです**。ですから、とりあえず、目的語があると憶えておいてかまいません。もし、なかったら、訳さなければいいだけで、それで間違うことはありません。

ルール7　目的語の後ろには、動作の状況を示す語句がルールに従って整然と並ぶ。

目的語の後ろにある語句　どんな風に　誰と　どこで　いつ　は、その動作がどのような状況で行われたかを説明する語句です。

注意したいのは、日本語と逆の順序で並ぶことです。日本語では、「いつ、どこで、誰と、どんな風に（～する）」と並びます。英語では逆に「どんな風に、誰と、どこで、いつ」の順で並びます。英語と日本では思考方法が逆なのかと思うかも知れませんが、違います。日本語も英語もほかの言語も、動詞にとって大切な説明語句ほど動詞の近く

に置くという言語の大法則に従っているだけなのです。動詞との距離に注目してもう一度見てみましょう。

英 語　　〜する / どんな風に　/ 誰と　/ どこで　　/ いつ

日本語　　いつ　/ どこで　　/ 誰と　/ どんな風に　/ 〜する

動詞「〜する」に一番近い位置にくる状況を示す語句は、日本語と英語で違いますか、同じですか？　自分で眺めて理解して下さい。

例文では、yesterday（昨日）がそれにあたります。「昨日、書いた」と、「書く」という動作の状況を説明しています。なお、**この動作の状況を示す語句を副詞と言います**。副詞は、「いつ、どこで、誰と、どんな風に」と４つそろっている必要はありません。３つでも２つでも１つでも結構です。もちろん無くても結構です。

5　意味のまとまりの区切り方　応用と解釈の仕方

ルール8　回数をあらわす副詞だけは動詞の前に置く。

ルール S5 で、動詞を修飾する「いつ、どこで、誰と、どんな風に」は文の最後の方に整然と並ぶことを学びましたが、１つだけ例外を学びます。

回数を表す語句は文尾ではなく、be 動詞や助動詞があるときは、その後ろに、動詞の前に来ます。つまり、次のようになります。

be 動詞や助動詞　/　回数の語句　/　動詞

回数の少ない方から，never （一度も無い）　sometimes（時々）　often（しばしば）　usually（たいていは）always（いつも）　は動詞の前に来ることになっているので、動詞と一緒にまとめて訳してしまいます。なお、このルールの憶え方は、「頻度を表す副詞は美女の後ろ、動詞の前」です。」

Jack / always plays / the violin / in his room.

ジャックは　いつもします　バイオリンを　彼の部屋で

ルール9

文頭に主語以外のものが来ることがある。それは、書き手が強調したい語句（ほとんどが時間の語句）である。

ルール S2 で、文の最初には必ず主語が来る、と説明しましたが、主語の前にいろいろな語句が置かれることがあります。特に、時間を表す語句が多いのです。それは、書き手が本来、後ろに置くべき語句を文頭において強調し、読み手にはっきり理解して欲しいからなのです。しかし、そうした語句は名詞ではありませんから、主語との識別は容易です。

One day / in December, / 1984, // 37 top musicians / met / in a studio / in London.

Seven weeks later, // it / was put / on the air / in many countries.

At present / more than 6 billion people / live / on Earth.

ルール10　文頭に主語以外のものがくることがある。「それから」「しかし」「次に」などの段落構成のための語句である。

主語の前に来るもので、もう１つだけ有名なものは、説明の順序を明らかにする「最初に」「次に」「しかし」「言い換えると」などの文章構成、段落構成のための語句である。決まりきっているので、これらも主語と間違うことはない。

有名な段落構成語句　First（最初に）Then（次に）　However（しかし）　But(しかし)

B 英語の単語がまとまって1つの意味をなすことを理解し、実際にフレーズごとにまとめる仕方を解説します。

ルール11　名詞は修飾語句を伴って名詞句を作り、1つの意味のまとまりを作る。

名詞と動詞だけで出来ている文は簡単で理解しやすい。

Taro / wrote / a letter.　　I / love/ Mary

太郎は　書いた　手紙を　　私は　愛しています　メアリーを

しかし、そういう文は探してもほとんどないほど稀で会話でもほとんど使いません。日本語でも「太郎は手紙を書いた。」とか「私はメアリーを愛しています。」などのように、短い文を次々に話す人はほとんどいませんね。いたらロボットみたいで気色悪いですね。**人間が普通に話す１つ１つの文は、名詞を修飾する語句が沢山くっつくことで内容が豊かになり、文の情報量が多くなり、結果として長くなります。**

では、名詞につく修飾語を形容詞と言います。形容詞の並べ方の大原則はこうです。

「修飾語が１語なら名詞の前におき、２語以上で１まとまりの意味を持つ長い修飾語は名詞の後ろに置く。」

例えば、apple を修飾するために、red, big, my などの意味が１語で出来ている形容詞は前に置かれます。しかし、on the table（テーブルの上にある）や given by my mother（母がくれた）などのように２個以上で一まとまりの意味をなす語句は、後ろに置くことになります。

（例）　a big red apple on the table　　（テーブルの上にある赤くて、大きなリンゴ）

それで、このような名詞を中心とした意味のまとまりを名詞句と呼びますが、名詞句は関係代名詞を使わない限り、ほとんど２個から７個程度の単語のまとまりなので、/　　/、で区切ってできるだけ１まとまりしておきます。そして意味をしっかり捉えます。関係代名詞の処理の仕方は、後述します。

（例）　He / gave / me / a big red apple on the table.

彼は　くれました　私に　テーブルの上にある大きくて赤いリンゴを

なお、どうしても名詞句がうまく訳せない場合には、次の公式を覚えて戻ってもかまいません。とにかく、意味をしっかり取ることです。

名詞句の構造	形容詞１	形容詞２	名　詞	長い形容詞
訳す順番	2	3	4	1
例　　文	a big	red	apple	on the table
名詞句の日本語訳	テーブルの上にある		大きくて	赤い　リンゴ

ルール12　前置詞は直後の名詞と一緒に前置詞句を作りまとまった意味をなす。

前置詞とはat, in, on, of, to, from, under, over, aboutなどの短い単語である。これらの単語はそれ自体では完結した意味を持たない。必ず後ろの名詞と一緒になって１つの意味のまとまりをなす。そこで前置詞と名詞はひとまとまりにしておくとよい。

on the table　　to the station　　about the news　　from America

大事なことは、この前置詞句は、意味のまとまりは修飾する働きを持つことである。

前置詞句は何を修飾するか？　名詞の次にあればその名詞を修飾し、動詞句の後ろにあれば、その動詞句を修飾するのが原則である。

名詞を修飾する前置詞句とは？

The apples on the table / are / mine.　下線部のon the tableは名詞the appleの直後にあるから、それを修飾する。すなわち、the apples on the tableで１つのまとまりをなす。意味は、「テーブルの上のリンゴは」という意味である。このon the tableを動詞areを修飾するものと勘違いする例がよく見られるので注意したい。誤答の多くは、「リンゴはテーブルの上にあり、私のものです。」の類である。

動詞を修飾する前置詞句とは？

However, // people / were still starving / in many places.

しかし　人々は　まだ飢えていました　多くの地域で

Ｉ このように、in many placesが動詞starveの後ろにあるので、これは動詞を修飾する語句であって、名詞peopleを修飾するわけではないのである。基本的に動詞の後ろにある語句が、動詞を超えて前に出たり、動詞を超えて修飾することはありえないのである。まさに動詞は万里の長城のように越えがたいものなのである。従って、上が正しい訳で、下が間違いである。下のような間違いが多いので、気をつけよう。

正しい訳　しかし、人々は多くの地域でまだ飢えていました。

間違った訳　しかし、多くの地域の人々は、まだ飢えていました。

最近、この間違いを指摘しても、正しい訳と間違った訳の判別さえつかない生徒諸君が多いようだ。

例外を無視して、大きくまとめれば、英語の語句の働きは次のようになる。

主語になるもの	名詞の仲間だけ	
動詞になるもの	動詞の仲間だけ	
目的語になるもの	名詞の仲間だけ	
修飾語になるもの１	形容詞（名詞を修飾するもの）	前置詞句
修飾語になるもの２	副詞（動詞を修飾するもの）	前置詞句

C 文と文がつながる形

◆ 名詞節のthat

◆ ルール９　名詞の直後に文が続いていたら、それは関係代名詞節である。その文は名詞を修飾している。

◆ ルール１０　接続詞がついていたら、そちらから先に訳す。

6 英文解釈FAQ（Frequently Asked Questions よく聞かれる質問とその答え）

■ どうすれば限られた時間で正確に読むことができますか？

フレーズ単位で区切って、前からどんどんスピードをつけて読んでいくことが大事です。

理由は以下に列挙します。

１　ほとんど、ネイティブスピーカーの読み方と同じです。

２　英語を話すときも、日常会話はフルセンセンスよりもフレーズで言うことの方が多い。つまり、ネイティブもフレーズ単位でものを考え、発言し、理解している。

（例）　Where are you going? どちらにお出かけですか

To Morioka station.（盛岡駅へ）

（例）　今日、何食べる。

カレー食べたいなあ。　（「私」という主語は省略している）

また別の証拠に日本人も英語話者も母国語を話す時でさえ、主語と述語が一致しない（＝フレーズが一致しない）ことがあります。これはフレーズ単位で思考し発言を組み立てているため、時として間違うことがあるのです。特に大勢の前でスピーチしている時など緊張している時に起こります。

（例）　（ある校長先生の運動会の演説）

運動会とは、子どもたちの健やかな体の育成を願っているのですが、今日は精一杯がんばって下さい。最初、運動会の一般的な説明をしようとして、途中から言うことに詰まってきたので、「がんばれ」で締めくくった。支離滅裂な文章ですが、大体の会話は支離滅裂なことが多いのです。それでも

３　戻らないので、スピードが速い。これからの速読、速解時代に適応可。

４　フレーズ単位なら、１つの文がいかに長くても意味を記憶し、再構成できる。

５　私たちは母国語（日本語）もほとんどフレーズ単位で話し、理解し、読んでいます。

（例）きのう　私は　東京のおばさんからもらったお菓子を　家族全員で　楽しく　食べました。

■ 学校の先生から、英語は後ろからフレーズごとに訳してもどってくると良いと教わりましたが？

戻りながら訳す方法は、英文を正確に日本語に書いて訳すとき、あるいは複雑な構文を使っているとき等に使うと便利です。また高校入試、大学入試でも「下線部を日本語に訳しなさい」という設問の時は、正確に日本語らしくなるように訳さなければなりません。この「戻りながら訳す方法」（これは安倍式英文読解法Ver.1で説明しています）は、英文読解初級者、具体的には中学１年生から中学３年前期までの人が取り組むとよいと思います。しかし、入試問題を意識する中学３年後半（夏休みから）は、バージョン２に入るべきです。

しかし、大量の英文を限られた時間で読むという場合には、つまり「読んでわかればいいという時」は、前からいくのがいいのです。私も高校１年～２年あたりの初学者に教える時は、バージョン１の戻り訳式を徹底して教えています。長年の経験から言って、そこから意識せずに長文を読めるようになる（つまり直読直解する頭脳明晰な）生徒もいますが、意識してバージョン２に進まなければ「世界全体が幸福になる」（宮沢賢治）ようにはならないと考えま

す。

■　教科書の日本語訳を暗記するのは止めましょう。

　よく中学生や高校生で教科書の虎の巻（ガイドブック）を買ってきて、その日本語訳を暗記する人がいますが、「労多くして益なし」ですから、やめましょう。

　「子どもには魚を与えるな。魚のつり方を教えなさい。」ということわざがあります。みなさんも結果を暗記するよりも、どんな英文でも理解できる**方法**を覚えましょう。

■　フレーズとは何ですか？

フレーズとは Phrase と英語で書きます。フレーズとは文中の一定の意味のまとまりを言います。

人によって、フレーズの切り方は違います。それは人間の記憶力と関係があるのです。長いフレーズでもすぐに理解できる人もいますが、はじめのうちは、意味のまとまりは機能別（主語、動詞、目的語、方法、場所、時間）のグループに分けるのが妥当と思います。

■　フレーズ読みした方がいいという科学的な根拠はありますか？

心理学の用語に短期記憶と長期記憶という言葉があります。

記憶の種類

記憶は、覚えている時間別に 3 つに分けられます。

1　感覚記憶

　ほんの一瞬だけの記憶です。雑踏を歩いていて次々とすれ違う人の顔、確かに一瞬目に入りますが、記憶に残ることはなく、流れすぎていきます。

2　短期記憶

　アドレス帳の電話番号を見る、電話をダイヤルする。このときは覚えていますが、そぐに忘れて、必要なときはまたアドレス帳を見ます。短期記憶は、10 秒ぐらいの短い記憶です。数字でいえば、普通７つ前後しか覚えられません。　（私の経験則から言うと、英単語の場合、平均的な高校生では、５語から最大７語あたりまででひとまとまりにする必要があります。それ以上、長くなったら無理にひとまとまりにせず、どこかで区切りを入れるべきです。）

3　長期記憶

　小さな子供が一生懸命、自分の家の電話番号を覚えています。覚えてはすぐに忘れ、また覚える。こうして繰り返していくうちに、もう忘れなくなります。これが、長期記憶です。

このように、英文を読むときには短期記憶（short term memory）をうまく利用するのです。この短期記憶の容量ですが、人によって違います。言語処理能力の差によります。上の情報処理メモリーの理論に従えば、「できるだけ早く、できれば１０秒以内で最大７つ程度のフレーズに切って読む」ことが心理学的にも有効と判断できます。

なお、単語の記憶は長期記憶になります。従って繰り返し繰り返し、忘れても苦にせず、努力することが大事です。

日本語でも、子どもは長いフレーズは聞いて理解しておくことはできません。１つのフレーズを理解して脳に達して処理している間に、次のフレーズを聴くことができないからです。

　それで英語を学習する私たちも最初は子どもと同じです。最初は短いフレーズで練習します。そして理解力が高まってきたら、長いフレーズでも読めるし、話せるし、書けるようになります。

■　フレーズ読みとは具体的にどうすれば身につきますか？

２つのやり方があります。

公文式　フレーズの単位で読む教材を使用して、レベルアップを図る。（経験的方法）

安倍式　フレーズで区切るルールを覚える。そしてそのルールを利用して次々に英文を区切って前から次々に処理していく。（演繹的方法）

公文式のやり方はここでは取り扱いません。

さっそく安倍式に入りたいと思います。

■　安倍式フレーズ読みのルール

まず意味のまとまりの区切り方のルールを覚えよう。全部最初から覚える必要はありません。１つづつマスターしていくとよいのです。

安倍式フレーズ読みの大ルール7箇条

1　主部で区切り、主部はひとまとまりにしておくこと。

2　動詞をまとめておく。動詞句をひとまとまりにしておく。

3　動詞の後ろの物体（人のこともある）をひとまとまりにしておくこと。

4　前置詞の前で区切り、前置詞句はひとまとまりにしておくこと。

5　「いつ」「どこで」「誰と」「どんな風に」という副詞句をひとまとまりにしておく。

6　関係代名詞を見つけたらひとまとまりにしておくこと。戻らないこと。

7　時制を表す動詞以外の動詞を見つけたら、それらをひとまとまりにしておくこと。（準動詞の処理）

8　接続詞を見つけたら、△をつけて文の切れ目をはっきりさせること。

ルールの使い方

　これらの規則に従って鉛筆を使ってまとめていきます。区切り線（　/　）をいれてもいいし、慣れるまでは　［　　］　を使って完全に囲んでもいいです。

ルールの背景にある考え方

「文型」という項目で高校生は習ったと思うが、どんなに長い文章でも、主部と述部で出来ている。もっと割り切った言い方をすれば、どんなに長い英文でも主語は１個、動詞も１個しかない。

■ では、どうして英文はやたらに長くなるのか

▲ 名詞に修飾語がくっついて長くなる。これは無限に長くできる。

名詞を修飾する語を、どんなものであれ形容詞（けいようし）と呼びます。

an apple

a big apple

c

さらに名詞には、２個以上でひとまとまりの意味をなす修飾語は後ろに置くことになります。（＝後置修飾）これも無限に長くすることができます。

an apple given to me by Mary

an apple given to me by Mary yesterday

an apple given to me by Mary yesterday morning

修飾語のルール1

名詞を修飾する語を形容詞と呼ぶ。
１個で意味をなすものは前に置き、２個以上まとまって意味をなすものは、後ろに置く。
前に置く形容詞は短いから名詞と一緒にまとめておき、後ろに置く形容詞は長いから
名詞とは別にひとまとめにしておく。

例

a big red apple　　おおきな赤いリンゴ

an apple given to me by Mary yesterday morning　リンゴ　昨日の朝メアリーが私にくれた

▲ 動詞に修飾語がくっついて長くなる。これも無限に長くなる。

動詞を修飾する「いつ」「どこで」「誰と」「どんな風に」「なぜ」「なんのために」等の語句を副詞と言います。すべて「～する」という動詞を最終的に修飾します。

文同士が接続詞で連結されて長くなる。

特殊構文が使われて、主語も動詞も見えなくなる。（＝文構造が見えない）

英文が長くなる理由

修飾語が沢山ついている。（修飾の仕方は２つしかない。形容詞と副詞）

関係代名詞などがついて長くなる。（関係代名詞は（　）で閉じるとよい。）

従属節がついて長くなる。従属節とは次のようなもの。

主　節 ， 従属節 .

従属節は接続詞で始まる。

接続詞とはつぎのようなもの。

時の接続詞　when～したとき

特殊構文が使われているので、文の構造が見えない。

1　分詞構文

2　倒置構文

3　相関接続詞

どうしたら正確に速く読めるだろう。

1　単語を知る。

2　イディオムを知る。

3　特殊な構文を知る。

4　読解に必要な知識をまとめておく。

分詞構文

過去完了形

現在完了形

閑話休題

どうして戻る読み方と前から読む読み方があるのか？

言語の語順に関係します。

世界の言語は、一説には３０００語程度あると言われていますが、基本語順だけみると、ほぼ次の３つのタイプのどれかの相当します。

SVO 式　英語・中国語など　「誰が→動作→何を」の順　Tom likes Mary.

SOV 式　日本語など　「誰が→何を→動作」の順　トムは　メアリーが　好きです。

VSO 式　アフリカの諸語

そして動作を修飾する語（これを副詞と言います）を入れる位置は、英語の場合は、文尾が原則ですが、日本語は、

動詞の前に入れます。副詞をMで表現します。

英　語　SVO式　　S　V　O　M1　M2　M3　M4　M5

日本語　SOV式　　S　O　　M5　M4　M3　M2　M1　V

従って、英語を日本語に直すときは、本来は主語を訳してから、一番最後の修飾語M5から順次戻りながら訳し、最後に動詞Vで訳が終わるのです。

このことを中国語、すなわち漢文を読むときに、日本人は数千年に渡って苦労して、返り点のシステムを完成させてきました。返り点のシステムは漢文の授業で習いましたね。

（例韓非子）

商大宰使少庶子之市

これを語順をそのままにして、横書きにして

送りがなを振ると、　　商ノ大宰　/ 使ム　/ 少庶子ヲシテ　/ 之カ / 市ニ

さらに、読みをつけると、　　しょうノたいさい/ しム/ しょうしょうしヲシテ/ ゆカ/ いちニ

英語に直すと、　　The Sho’s prime-minister / makes / Shoshosi / go / to the market.

7　段階別英文読解ドリル

段階別に

1　中学校１年レベル

2　中学校２年レベル

3　中学校３年レベル、中学校２～３年レベル

4　高校１年教科書レベル

5　高校２年教科書レベル、

6　短大入試レベル

7　大学入試中級レベル

8　大学入試難関レベル

読みのドリル　すべて別掲しました

フレーズリーディングドリル （出典　中学校教科書　Birdland Junior English Ⅱ 文英堂）

At present / more than 6 billion people / live / on Earth.
現在　　/ ６０億人以上の人々は　　/ 生きています / 地球上に

Many of them, // especially people / who live in Japan and the United States , // are now leading / an easy life / with plenty of food.
彼らの多くは //　特に人々は / その人というのは日本やアメリカに生きている人ですが //　今、送っています /　簡単な生活を / 沢山の食べ物で

But / we / must not forget / that // about 500 million people / are now suffering from / hunger / in Africa / and some other parts of the world.
でも/私たちは / 次のことを忘れてはいけません / 約５億以上の人々が / 今苦しんでいます / 飢えで / アフリカと/世界のいくつかのほかの地域で

One report says that // millions of people / die from/ hunger / every year.
あるレポートは次のように言っています // 何百万の人々が / 死んでいます / 飢えで / 毎年

They / can't produce or buy / enough food / to stay alive.
かれらは / 作ったり売ったりできない / 十分な食料を / 生きているための

Africa / was hit / by a terrible drought / in 1983.
アフリカは / 打たれました / ひどい旱ばつによって / １９８３年に

Most of the crops / died // and many people / had to eat / the grass / just like / their cattle / ate.
穀物の大部分は / 死にました // そして多くの人々は / 食べなければなりませんでした / 草を / ちょうど同じように / 牛が / 食べるのと

At first / the cattle / died, // then / old people and babies.

Mothers / couldn't nurse / their babies, // because / they / didn't eat / enough themselves.

The tragedy / continued / into the next year.

In one camp in Ethiopia, / people / had to wait / 36 hours / for their turn / to get water.

When / at last/ it / rained,// there were / no seeds or cattle.　Africa / was dying / and in need / of the world's aid.

A large amount of food / was sent / to Africa / from many countries. However, // people / were still starving / in many places.

They / just watched / their family members / die / one after another.

Citizens / all over the world / soon took action to help / Africa's starving people.　Musicians / were / among them.

One day / in December, / 1984, // 37 top musicians / met / in a studio / in London.

There /they / recorded / "Do you know It's Christmas?" / to raise money for Africa.　Their group / was named / "Band Aid."

On January 28, / 1985, // another wonderful event / happened / at a Los Angeles studio.

Forty-five popular American singers / met / there // and formed / "USA for Africa," / an organization to fight famine with a song.

"No one has ever seen so many stars get together to record a son," a newsperson reported.

The song / they recorded / was / "We Are the World."

Seven weeks later, // it / was put / on the air / in many countries, // and / soon became / very popular / all over the world.

It / was often sung / by students / at their graduation / in the United States.

Popular singers / in other countries // also recorded / songs / to raise money for Africa.

In Canada / they / recorded / “Tears Are Not Enough” / in English and French.

フレーズリーディング　ドリル２　（高校基礎から短大入試レベル　２００語程度）　　出典エスト出版　トラックイングリッシュリーディング

Superstar tom Cruise, one of Hollywood’s top actors, had appeared in a lot of movies. Success, however, has not come easy for Cruise. Born on July 3, 1962, he has overcome many problems. As a child, he suffered from *dyslexia and had to take special reading course. He tried sports, but hurt his knee and lost his place on the school team. Then he stared acting and dropped out of high school.

Cruise became a superstar in the movie *Top Gun* (1986), where he played a handsome jet pilot. *Top Gun*, his eighth film, became the year’s most popular movie, as both men and women lined up at the theaters to see this attractive star.

Still, many people only thought of Cruise as a handsome young man, and not an especially good actor. That changed with the movie *Born on the Fourth of July* (1989). Playing a long-haired man in a wheelchair who had come back from a terrible war, Cruise did not look handsome. But his performance was great. He communicated his character’s anger and emotional pain so powerfully that people realized he was not just a handsome, charming man. They came to recognize tom Cruise as a great actor.

*dyslexia　読書障害